**DPC対象病院**

**疾患別 手術あり・なし別患者動態表**

**解　説　書（M）**

1. **DPC対象病院の現状について**
2. **本データ解析にあたり**
3. **疾患別／手術あり・なし別患者動態　対前年度比較表**

**(2015年4月～2016年3月／2016年4月～2017年3月との比較)**

1. **疾患別／手術あり・なし別、手術処置1・2での患者動態表**

**(2016年4月～2017年3月の実績)**

1. **特大附録 MDC分類別バブルチャート図作成ソフト**

**(2016年4月～2017年3月の実績)**

**患者動態（年間退院患者数および、平均在院日数）**

**お問い合わせ先**

**制作・著作　㈱エムシンク**

**〒151-0053 東京都渋谷区代々木1-43-7 光ビル**

**☎ 03-5358-4788 FAX 03-5358-4787**

**地域医療研究班　担当　森澤 隆久 ☎ 080-5338-3309**

**「DPC対象病院別、疾患別 手術あり・なし別患者動態表」**

**解　説**

**1、DPC対象病院の現状について**

　　平成29年4月現在下表の如く、一般病床を有する全国の病院（5,876病院）に対し、DPC病院（1,940病院）の占有率は33%であるが、200床以上の病院での施設数割合では50%を超えている。

　一方、病床数でみるとDPC病院の占める割合は57%と約6割を占めており、また急性期一般入院基本料等に該当する病床での割合では、80%を超えているとの報告もある。

このことからDPC対象病院の各種データ解析により、病院全体の動きや、各疾患ごとの現状を把握することができる。



**2、本データ解析にあたり、**

　　DPCのデータは、厚労省の「中央社会保険医療協議会」の診療報酬調査専門組織（DPC評価分科会）から、毎年開示される資料を基に解析ならびに作成したものである。

　　DPC対象病院は、それぞれの持つ機能での群分けがされており、Ⅰ群（大学病院本院・81病院）、Ⅱ群（特定の要件を満たす病院・140病院）、Ⅲ群（標準病院・1445病院）及び、DPC準備病院（276病院）に分けられている。またこれらDPC対象病院以外に、出来高算定病院（1559病院）も併せて掲載している。

※注（）内の各群の件数は2018年3月開示データより

　　また、各病院の所在を表わす都道府県名・二次医療圏名及び所在地を付記したことで、医療圏や所在地ごとの絞り込みができ、周辺の医療機関をはじめ、疾患別の地域医療連携の情報ツールとしても活用できる。

**3、疾患別手術あり・なし別患者動態表 対前年度比較表**

疾患は、01「神経系」～18「その他」までのMDC(Major Diagnostic Categories)18種での傷病名（疾患）別および診療行為（手術あり・なし）別に、医療機関ごとの患者動態（年間退院患者数ならびに平均在院日数）を提示し、対前年度実績との比較にてその増減を表してみた。



下表は04-呼吸器系疾患の「肺の悪性腫瘍」での青森県の掲載例　下表は別添Sampleにも掲載



**4、疾患別、手術あり／なし別、手術処置1・2別での患者動態表**

前述の疾患ごとの手術あり／なし別の表からさらに詳しく、「手術ありの処置1・2別」及び「手術なしの処置1・2別」の各医療機関の患者動態（年間退院患者数と平均在院日数）を表にした。また疾患は、01「神経系」～18「その他」までの18種での傷病名（疾患）別310疾患（別添疾患名一覧表14～17ページ参照）を掲載した。



　下表は「肺の悪性腫瘍」　福岡県 福岡・糸島医療圏の掲載例　下表は別添Sampleにも掲載



**5、特大附録 MDC（主要診断群）別の患者動態バブルチャート図の作成**

はじめに

MDC（Major Diagnostic Category）とは、WHOが制定しているICD-分類「疾患および関連保健問題の国際統計分類第10回修正」に基づく18の主要診断群のことで、「01神経系」、「02眼科」、「03耳鼻咽喉」、「04呼吸器」、「05循環器」、「06消化器」、「07筋骨格」、「08皮膚」、「09乳房」、「10内分」、「11腎・尿路」、「12女性系」、「13血液系」、「14新生児」、「15小児」、「16外傷」、「17精神」、「18その他」に分類されている。

　　これら18主要診断群の医療機関ごとの患者構成を、全国平均値に合わせた際の「年間退院患者数」と「患者構成の指標」および、「在院日数の指標」に関するデータを厚労省が開示しており、それをグラフによって可視化することで病院の実態が見えてくる。

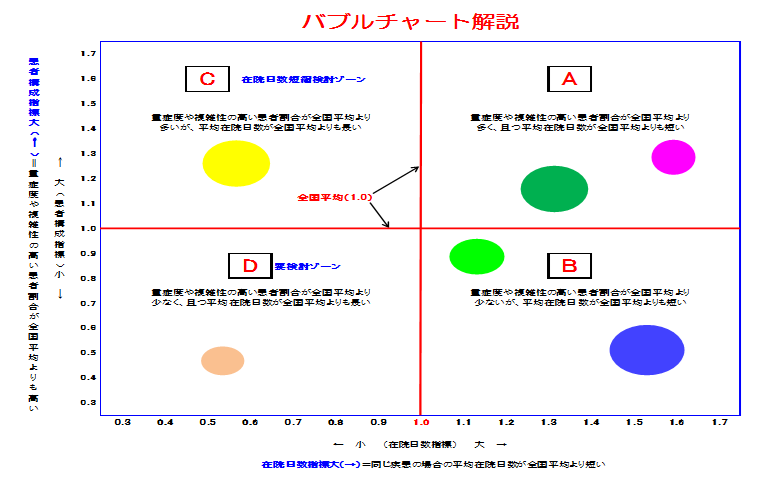
　　尚、データには以下の「在院日数の平均の差の理由の検討」ならびに「手法」について表記されており、特に「患者構成の指標」および「在院日数の指標」について、ここでは理解しておきたい。



バブルチャート作成用ソフトでは、既に各都道府県・二次医療圏・所在地が明示されており、また「件数」、「患者構成の指標」、「在院日数の指標」も掲載されているので、知りたい医療機関および、同じ医療圏や所在地を最大20施設を選択ソートし（絞りだし）、別のシートに貼付けるだけで、バプルチャートが出来上がる。

「患者構成の指標」が縦軸に、「在院日数の指標」を横軸にし、「件数」（月間退院患者数）をバブル（円）の大きさで表している。

　以下バブルチャートの解説



上記の表はある医療機関のバブルチャート図である。（縦横軸とも1.0が全国平均値）

ピンク色や緑色・黄色・紺色などの円は、それぞれ18診断群分類を表し、円の大きさは月間退院患者数を表している。

Aゾーンの診断群、特に縦軸の「患者構成指標」が高いことは、全国平均よりも重症度の高い複雑な疾患を抱えており、なお且つ在院日数も全国平均よりも短いことから、恐らく専門スタッフ（専門医、専任看護師、専門薬剤師、リハビリテーションなどのチーム医療）が充実していると思われる。

またA・Bゾーンは在院日数の指標が高いことから、全国平均よりも在院日数が短い状況にある。このことはリハビリテーションや、後方連携（回復期の受入れ先）との関係が充実しているものと考えられる。

　Cゾーンにある診断群は、重症度の高い患者が多いため、結果的に在院日数が長いと思われるが、今後は如何に在院日数の短縮を図るか、後方連携病院との関係づくりや、専門スタッフの更なる充実を図る必要があると思われる。

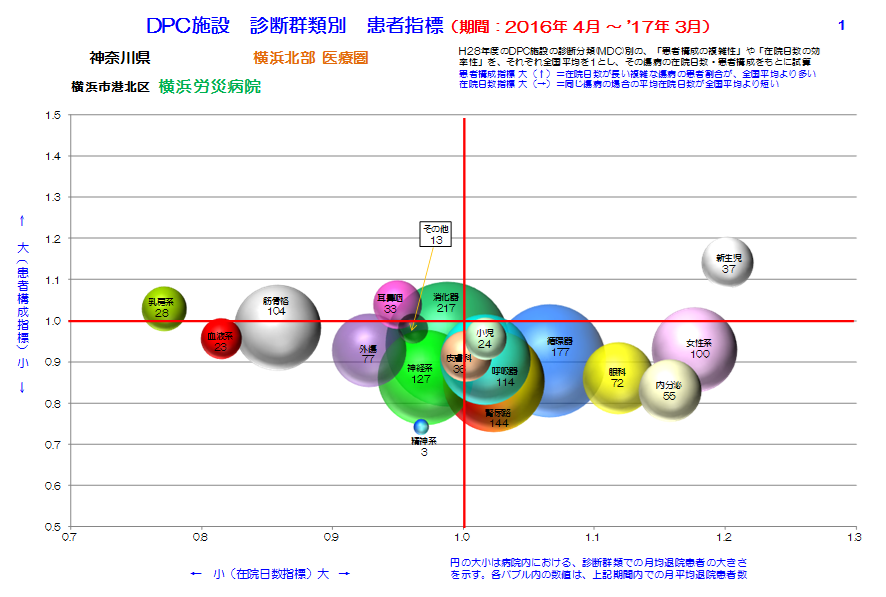
　Dゾーンにプロットされた診断群は、在院日数の短縮が僅々の課題である。

**バブルチャート図「みほん」**

「みほん」を参照しながら、対象病院および・二次医療圏など最大20施設まで選び、②の「選んだ施設の貼付け」のシートに貼付けて実行のこと。

バブルチャート図「みほん」の作成手順

1. 先ず ①「基データ」から神奈川県・横浜北部の医療圏を選択し、所在地の横浜市港北区と神奈川区および青葉区の3区を選びソートし、A列～CZ列までの全てのデータを、 ②「選んだ施設の貼付け」のシートの赤枠内に貼り付ける。
2. 次に ③「データのソート」のシートに貼り付けたデータが、各所定の箇所に納まっているかを確認する。
3. ③のシートの中央に書かれている「作業手順」を参照しながら、各データの赤枠内の全てをフィルターに掛けて、赤地の「月間退院患者数」の降順の列を選び、↓（降順）にして、患者数の多い順に入れ替える。
4. ④ 「施設バブルグラフ」に入れ替えたデータが反映される。
5. 同様に⑤ 「MDC分類別グラフ」にも反映される。
6. 縦軸と横軸の範囲が広いので、分り易いように軸の目盛りの部分にカーソルを持っていき、右クリックし「軸の書式設定」をクリックし、軸の範囲指定（最小値と最大値の設定）を行いう。
7. 縦・横軸の赤い線を1.0の位置に合わせる。
8. 下図は神奈川県・横浜北部医療圏の横浜労災病院のバブルチャート図。



　以上

1. 併せてプロットした近隣の病院との、MDC分類別比較用のチャートグラフも、別シートに表示される。下表は横浜北部医療圏の消化器系の例



1. 病院内の月間退院患者数と平均在院日数も病院ごとに表示される。

下表は横浜労災病院の例　診療科ごとの患者数や在院日数の長短が判る



　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　以上　疾患別手術あり・なし別患者動態表 対前年度比較表の　掲載疾患名一覧











疾患別、手術あり／なし別、手術処置1・2別での患者動態表の　掲載疾患名一覧表









疾患別、手術あり／なし別、手術処置2で処方される医薬品一覧表







